

2011年3月期第3四半期業績概要

2011年 1月28日

アンリツ株式会社
代表取締役社長 橋本 裕一



東証第1部:6754

<http://www.anritsu.com>

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的
事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を
含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関
する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能
性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、
さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知お
きください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、
米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や
競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引
き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなど
です。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、
法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、
将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

1. 事業概要
2. 2011年3月期 第3四半期 連結決算概要
3. 2011年3月期 通期見通し
4. 市場動向と今後の取り組み
－ 計測事業 モバイル市場 －

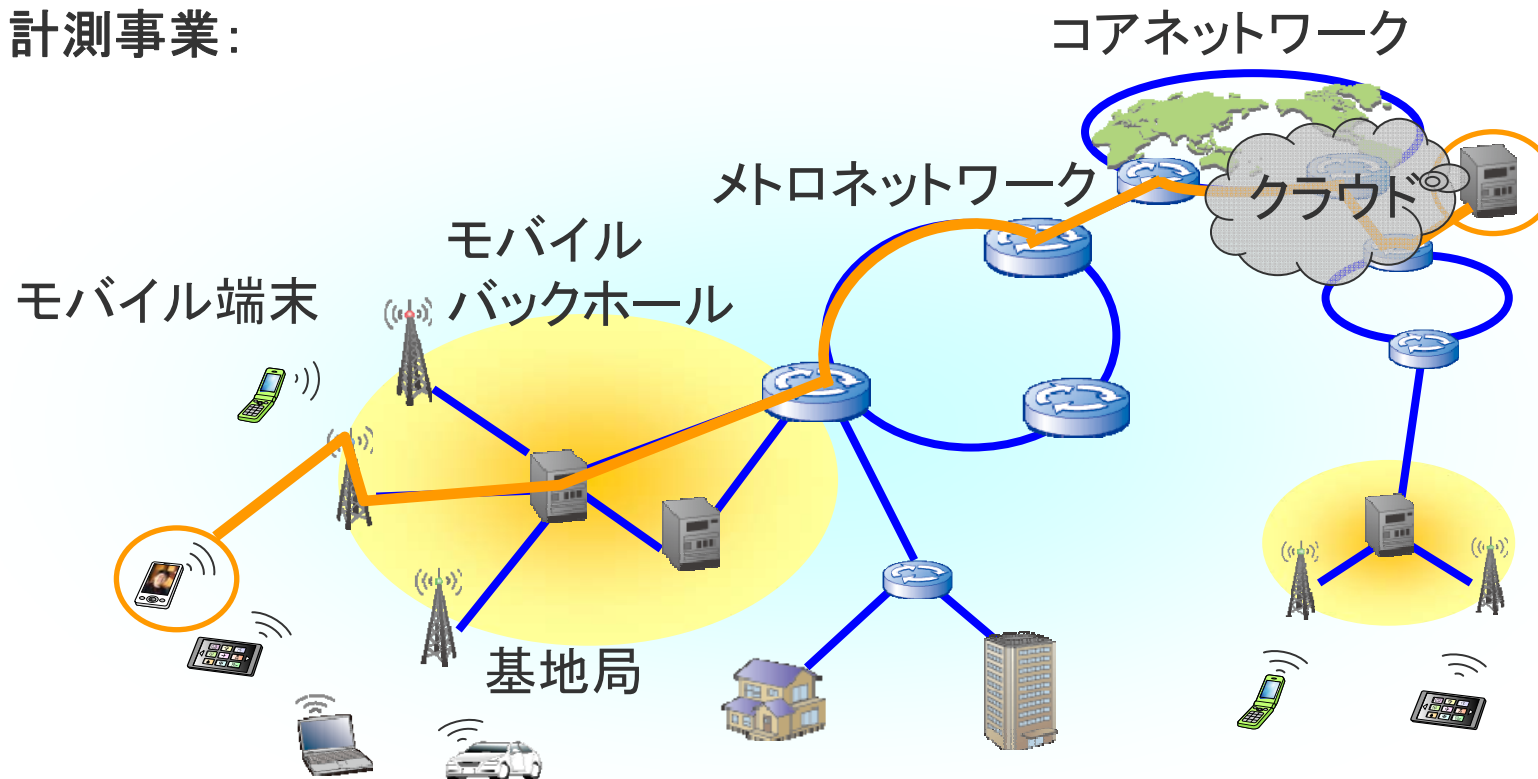
1. 事業概要：事業セグメントの呼称と事業内容

セグメント	サブセグメント	事業内容
計測	モバイル市場	LTE、3Gなどの携帯端末、チップセットの開発・製造・保守用テストなど
	ネットワーク・インフラ市場	光・デジタル・IP通信機器の開発・製造用テスト、有線および無線ネットワークの敷設・保守用テスト、サービスアシュアランスなど
	エレクトロニクス市場	無線設備、電子部品等の開発・製造用テスト、汎用テストなど
情報通信		映像配信機器、通信機器、IPスイッチとその応用システムなど
産業機械		食品・薬品・化粧品用重量選別機、異物検出機など
その他		精密計測、光デバイスなど

2010年3月期 売上比率	計測 66%	情報 7%	産業機械 16%	その他 11%
------------------	-----------	----------	-------------	------------

1. 事業概要 - 計測事業 -

計測事業:



端末の開発・製造用、端末認証試験・相互接続試験、
インフラ建設・保守用、デバイス等の開発・製造用、
サービスアシュアランスなどの計測ソリューション

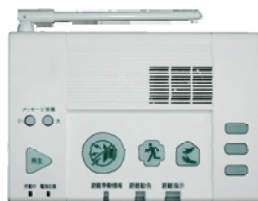
1. 事業概要 - 情報通信・産業機械 -

情報通信事業:

河川・ダム等の水位監視等を行う映像監視・データ収集分析ソリューション、マルチキャストで高品質を確保するIPネットワーク機器（帯域制御装置など）、防災、減災に貢献する双方向安否確認通信システムなど



帯域制御装置



減災コミュニケーションシステム送受信機

産業機械事業:

食品、薬品などの重量検査、異物検出



食品
医薬品など







X線異物検出機



2. 連結決算概要：第3四半期のポイント

LTE、スマートフォン等の計測ビジネスがドライバー
北米やアジアで堅調に推移

セグメント	第3四半期の状況	実績
計測	LTE開発用計測器の需要は堅調 スマートフォン等の端末計測需要が増加	
情報通信	公共投資の削減などにより低調	
産業機械	ASEAN、北米は堅調 日本は季節要因もあり停滞気味	
その他	ブロードバンド化に伴う光デバイスの需要一巡	

2. 連結決算概要：第3四半期業績サマリー

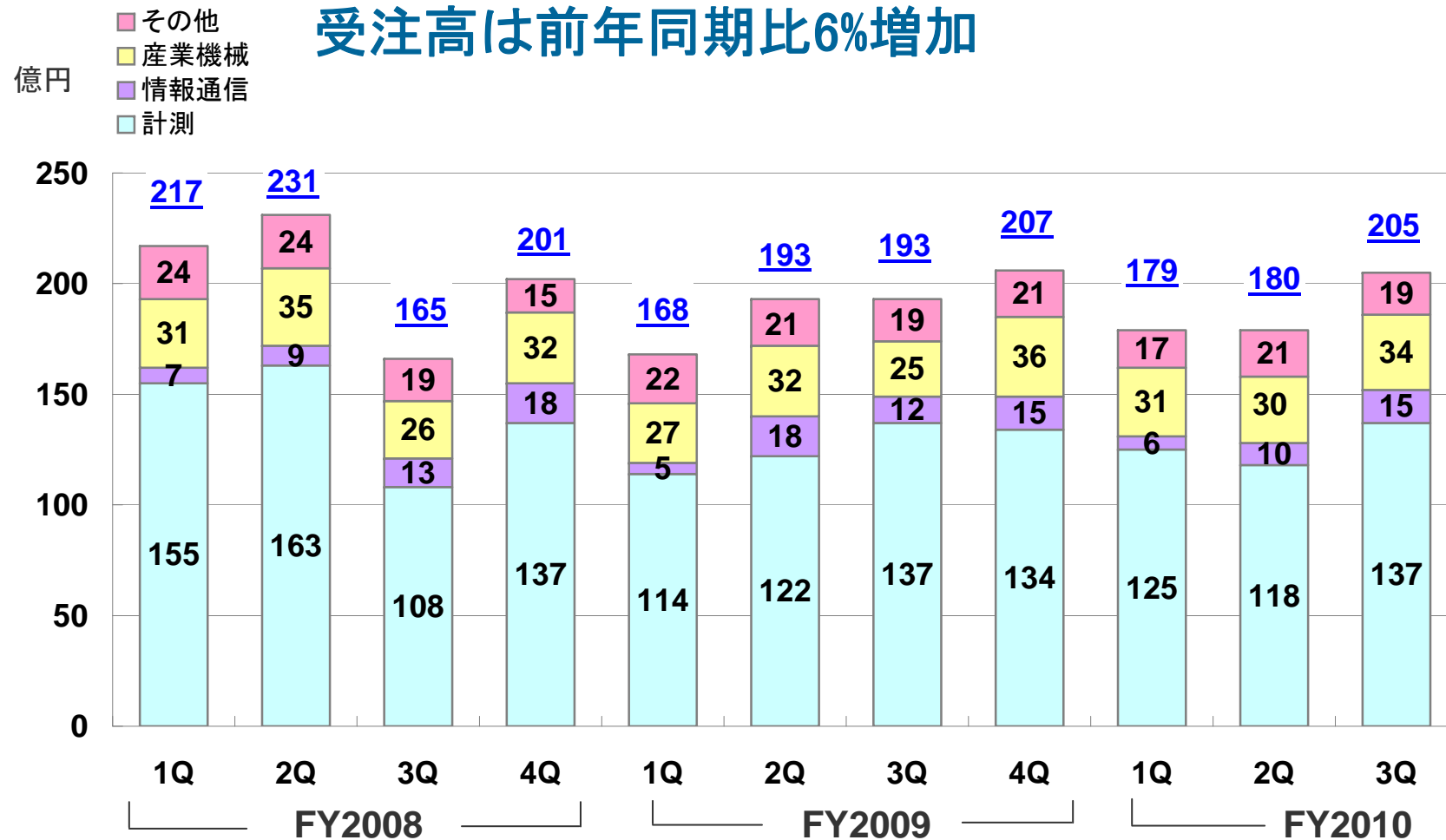
売上高 8%増、営業利益は大幅改善

(単位：億円)

	前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	555	563	8	2%
売上高	501	539	38	8%
営業利益	19	43	24	130%
経常利益	10	29	19	191%
税引前当期純利益	13	28	15	113%
当期純利益	2	22	20	-
フリーキャッシュフロー	58	66	8	13%

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - 受注高推移 -



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入、受注高 = 当四半期末受注残高 + 当四半期売上高 - 前四半期末受注残高
 (受注残: 各四半期末の為替レートから換算)

2. 連結決算概要 – 事業別売上高・営業利益 –

計測事業は増収増益、全体の業績を牽引

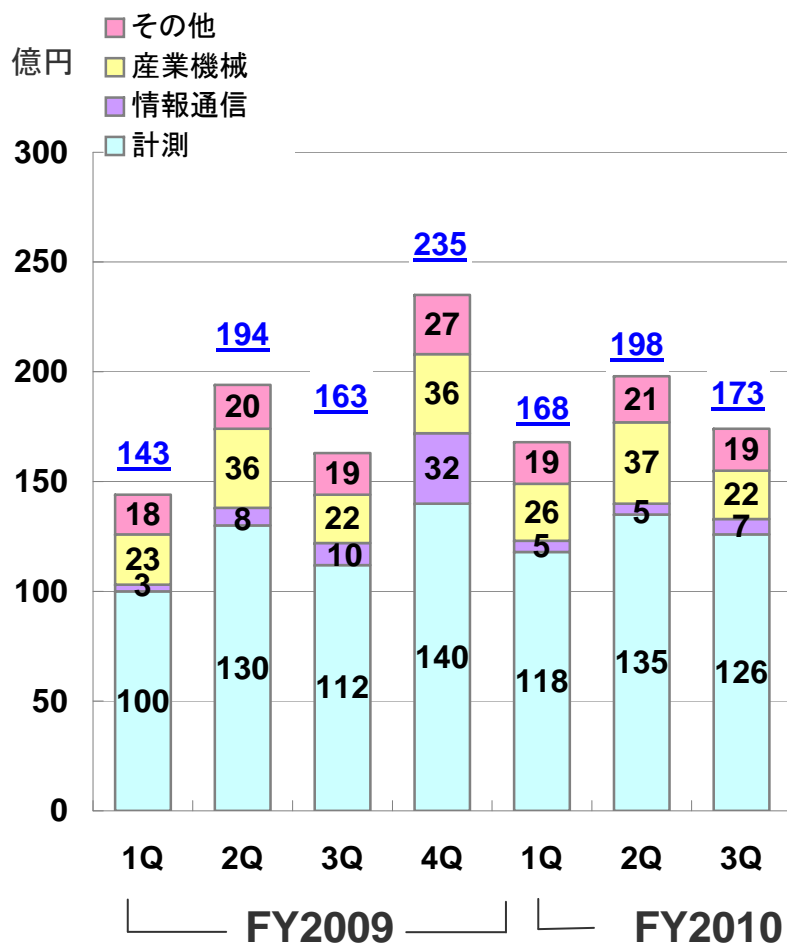
(単位: 億円)

		前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	342	379	37	11%
	営業利益	9	36	27	297%
情報通信	売上高	21	17	△ 4	△ 21%
	営業利益	△ 7	△ 6	1	-
産業機械	売上高	81	85	4	6%
	営業利益	3	2	△ 1	△ 13%
その他 (含: 内部 消去)	売上高	57	59	2	4%
	営業利益	13	11	△ 2	△ 20%
合計	売上高	501	539	38	8%
	営業利益	19	43	24	130%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

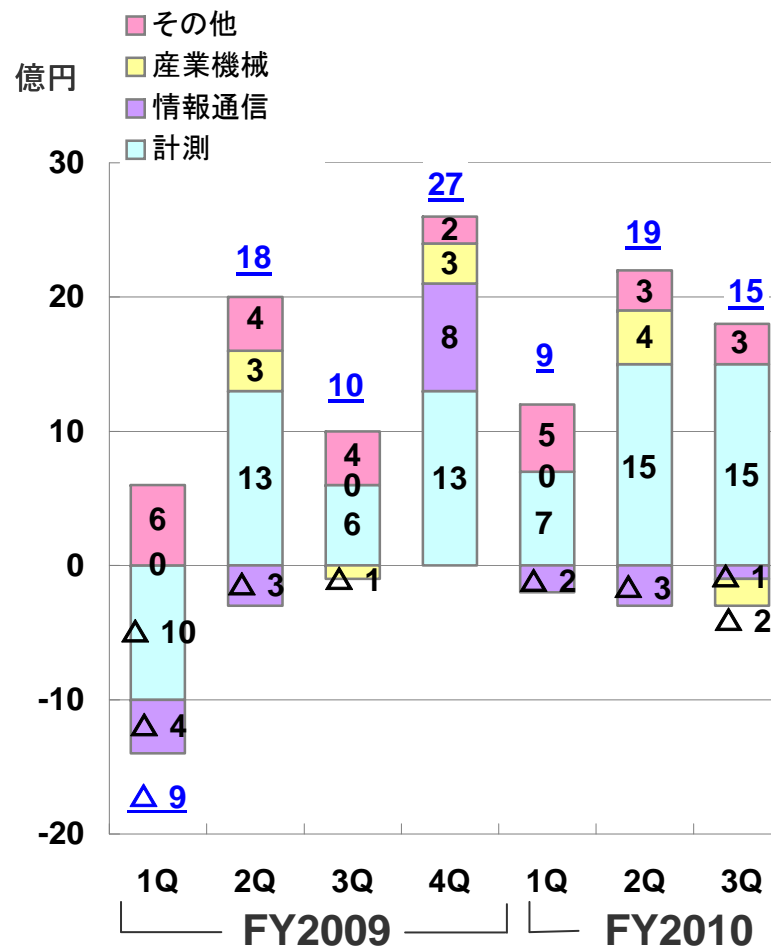
2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業損益 -

計測事業 3四半期連続して増収増益



連結売上高

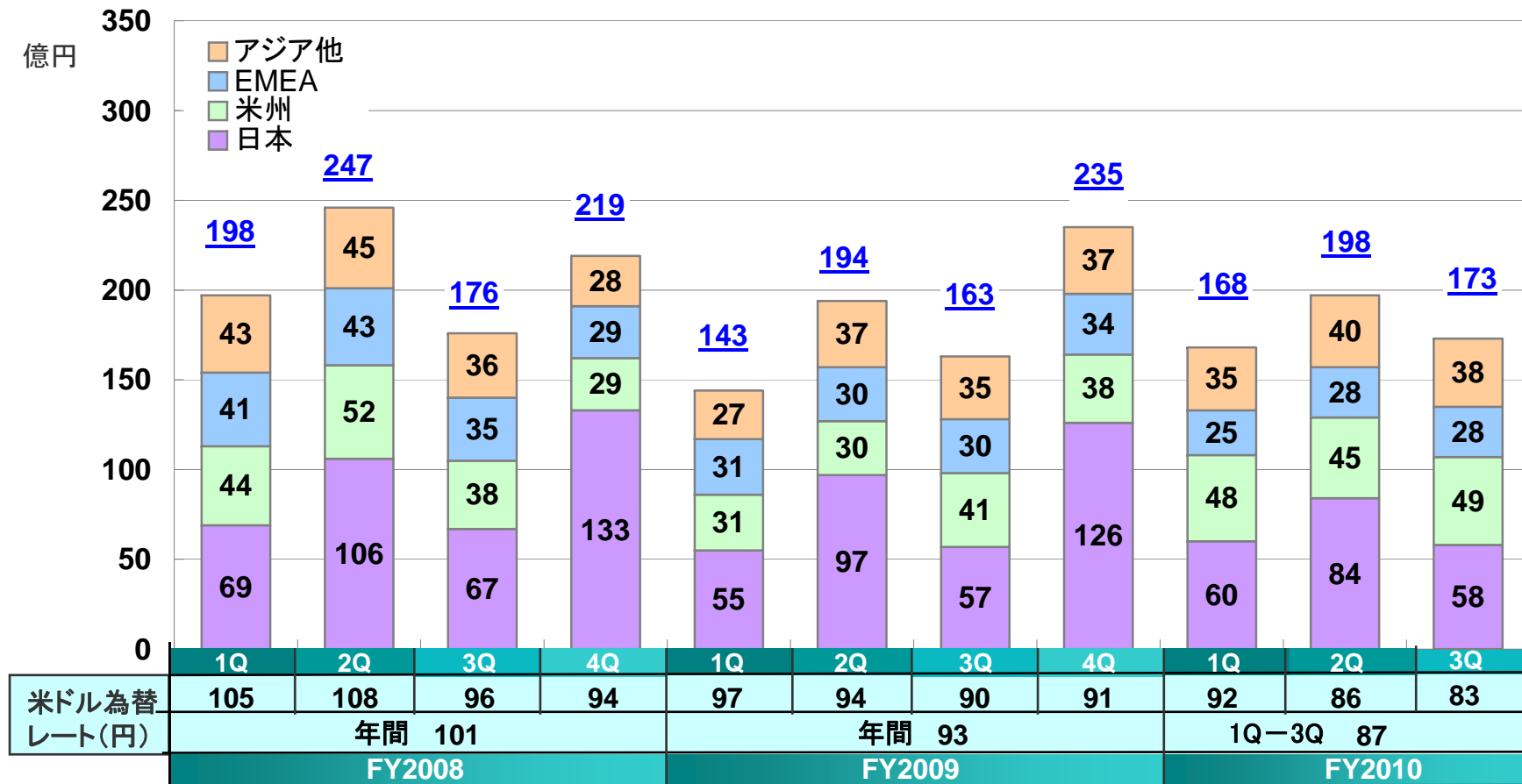
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



連結営業利益

2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

米州は無線インフラ、モバイル市場が継続して堅調



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - 営業外・特別損益 -

10-12月期の営業外は為替差損、金利などで3.3億円費用計上

(単位:百万円)

	前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結会計期間 (10-12月)実績
営業利益	1,873	4,311	1,492
金融収支	△ 363	△ 444	△ 146
為替差損益	△ 432	△ 843	△ 177
その他	△ 74	△ 108	△ 10
営業外損益計	△ 869	△ 1,395	△ 333
経常利益	1,004	2,916	1,158
固定資産売却益	149	-	-
投資有価証券売却益	140	-	-
社債買入消却益	62	-	-
資産除去債務会計基準 の適用に伴う影響額	-	△ 68	-
投資有価証券評価損	△ 17	△ 1	△ 0
特別損益計	334	△ 69	△ 0
税引前利益	1,338	2,847	1,158

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

第3四半期累計で安定したキャッシュを創出 内訳

単位:億円 △減少

第3四半期累計

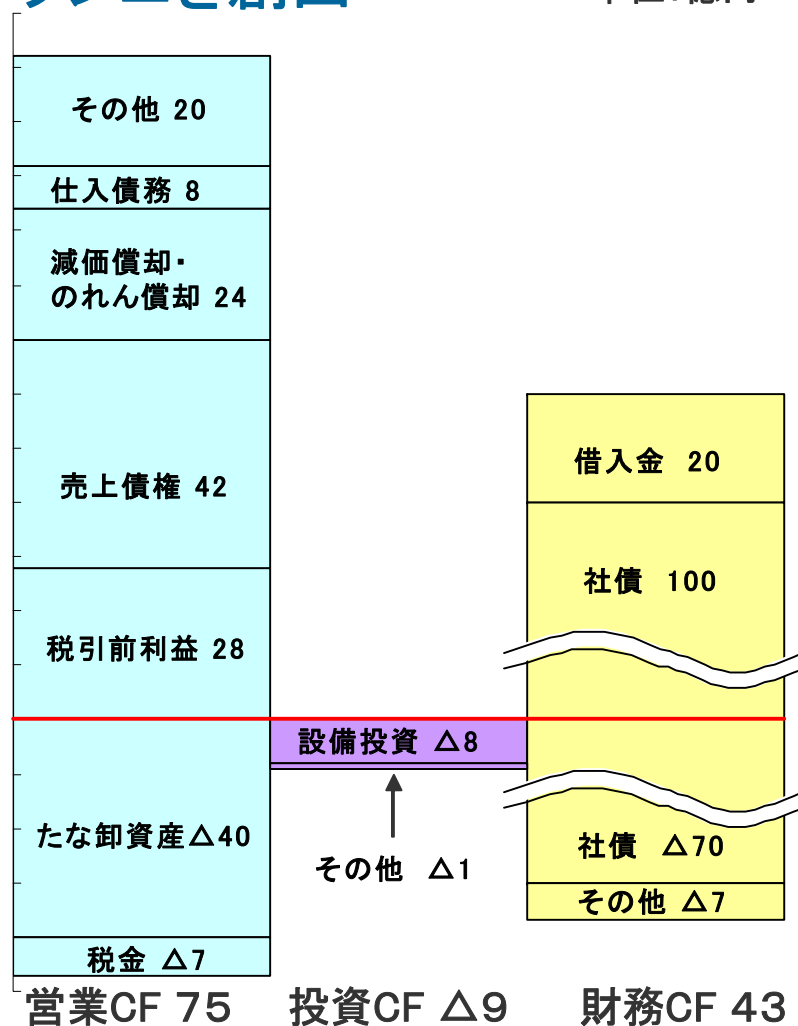
- ①営業CF: 75億円
- ②投資CF: △9億円
- ③財務CF: 43億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 66億円

現金同等物期末残高

368億円



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

3. 2011年3月期 通期の見通し(連結)

利益の通期見通しを上方修正

(単位：億円)

		2010/3期	2011/3期			
		通期実績	前回発表 (2010.10.27)	今回 通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		735	770	770	35	5%
営業利益		46	56	65	19	42%
経常利益		36	40	48	12	34%
当期純利益		4	25	30	26	679%
計測	売上高	483	515	520	37	8%
	営業利益	23	39	48	25	113%
情報通信	売上高	53	55	50	△3	△6%
	営業利益	1	0	0	△1	-
産業機械	売上高	116	125	125	9	7%
	営業利益	6	6	6	0	△2%
その他	売上高	83	75	75	△8	△10%
	営業利益	16	11	11	△5	△30%

(参考)FY10 4Q 想定為替レート:1米ドル=85円
1ユーロ=110円

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

3. 配当方針：増配について

2011／3期の通期見通しの上方修正を踏まえて、
期末配当を 4円 → 5円 に増配します。

中間配当2円と合わせて、年間配当金は、7円となります。

【配当方針】

株主の皆さまへの利益還元策として、連結当期純利益の水準に応じて、剰余金の配当を行うことを基本方針としています。目標とする主要指標は、連結純資産配当率(DOE)であり、補完的に配当性向などその他事情も考慮して決定しています。

4. 市場動向と今後の取り組み - モバイル市場 -

(1) LTE市場動向

・商用化実績

Verizon 2010年12月5日 38都市

⇒ 2011年上半期に端末10機種を発売予定

NTTドコモ 2010年12月24日 3大都市

・商用化予定

AT&T 2011年半ば

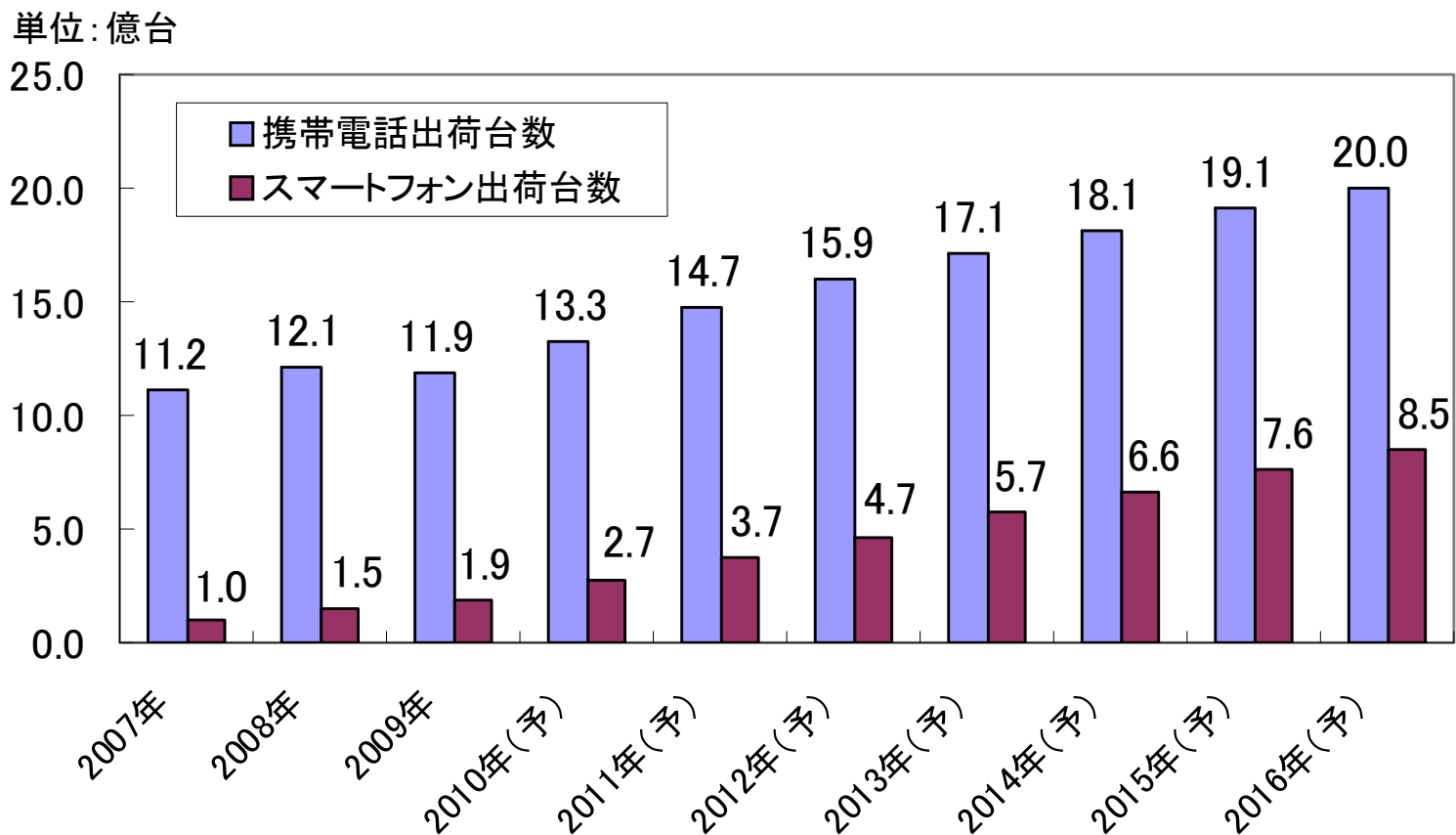
⇒ 2011年末までに端末20機種を発売予定

チャイナモバイル 2012年予定

⇒ TDD LTEのトライアルを2011年から本格化

4. 市場動向と今後の取り組み - モバイル市場 -

(2) スマートフォン市場拡大による製造需要の立上り



出典: 矢野経済研究所

4. 市場動向と今後の取り組み - モバイル市場 -

(3) 今後の取り組み

- ・開発用：LTE FDD方式、TDD方式の開発は継続
コア開発から認証試験へ投資シフト
⇒ 両方式に対応した開発用計測の継続的な提供
- ・認証試験用：商用化に合わせた認証試験の需要が増大
⇒ 認証試験需要に対応したテストケースの拡充
グローバルな外部認証団体での継続的な認証取得
- ・端末量産用：各種端末製造における検査需要の増大
⇒ 各通信方式にマルチ対応できる製造用計測の機能拡充
1機種でGSM、W-CDMA、CDMA2000、TD-SCDMA、HSPA+、LTE FDD、LTE TDDなど多くの通信規格に対応
- ・基地局建設・保守用：通信事業者による通信インフラ整備
⇒ ハンドヘルド計測の提供・拡充
- ・グローバルなベンダーやオペレータに対するサポート強化

Anritsu

Discover What's Possible™